

[J. Inst. Enol. Vitic. Yamanashi Univ. 24 25~35 1989]

## 資 料

### 新品種・赤ワイン用ぶどう 「ヤマ・ソービニオン」の品種登録

山川 祥秀・守屋 正憲・穴水 秀教

山梨大学工学部附属発酵化学研究施設ぶどう育種試験地においては、業務の一環として、ワイン用ぶどうの育種を行っている。

1978年に行った各種の組み合わせの交雑実生株について、栽培・品種特性およびワイン醸造試験を繰り返して、目的に適った株を選抜してきたが、その中から、栽培性およびワイン品質が優れている一株を種苗法に基づき出願する運びとなった。

この品種は、山ブドウ (*Vitis Coignetiae*) を母親とし、カベルネ・ソービニオン (*Vitis Vinifera*) を父親とした一株であるので、出願品種の名称を「ヤマ・ソービニオン」とした。

ここに、「品種登録願」をはじめとして、一連の資料を掲載する。

## 品 種 登 録 願

平成元年 3月 日

農林水産大臣

羽田 孜 殿

出願者 住所 山梨県甲府市武田4丁目4-37  
電話番号 0552-52-1111  
氏名又は名称 山梨大学  
(代表者氏名) 学長 小出 昭一郎

種苗法第7条第1項の規定に基づき、次のとおりに出願します。

- 1、農林水産植物の種類 果樹 (ぶどう)
- 2、出願品種の名称 (ふりがな) ヤマ・ソービニオン (Yama Sauvignon)
- 3、出願品種の育成をした者 3人  
氏名 (ふりがな) 山川 祥秀 (やまかわ よしひで)  
守屋 正憲 (もりや まさのり)  
穴水 秀教 (あなみず ひでのり)

#### 4、特定条件下の出願

- (1) 出願品種が職務育成品種である場合

山梨大学工学部附属発酵化学研究施設ぶどう育種試験地は、各種ワイン用ぶどうの栽培特性、品種特性、ワイン特性の調査およびワイン用ぶどうの育種を業務としている。当登録品種はその業務の一環として

育成された品種である。

- (2) 出願品種の育成をした者の承継人が出願した場合
- (3) 既に外国に対して出願した品種について出願した場合
- (4) 同盟国出願又は特定国出願した者が優先権の適用を受けようとする場合

#### 5、提出物件の目録等

- (1) 出願品種の植物体の写真 出願品種および対照品種 17種類 各3枚
- (2) 出願品種が種子又は種苗を種苗とする場合  
提出する種子又は種苗の別及びその量
- (3) 出願品種が交雑品種の場合 各親品種の種子の量 母親 粒  
父親 粒
- (4) 種子又は種苗を種苗としない品種の場合  
特性を確認できる原木・親株等の維持、保存場所及びその方法

#### 6、添付書類の目録

- (1) 願書及び説明書 副本1通
- (2) 現地調査票 1通  
(以下該当しないものを消去)
- (3) 使用者等が出願した職務育成品種の場合 契約・勤務規則等の写し 1通
- (4) 出願品種の育成をした者の承継人が出願した場合  
承継人であることを証する書面 1通
- (5) 出願品種が2人以上の者によって共同で育成された場合であって、出願者の全部又は一部が当該出願品種の育成をした者以外の者（育成をした者の一般承継人を除く）であるとき、育成をした者の地位の承継（一般承継を除く）につき当該承継の時ににおける他の出願資格者（出願品種の出願者となることができる者をいう）の同意を得たことを証する書面 1通
- (6) 出願者が日本国内に住所及び居所を有しない外国人の場合  
国籍を証する書面 1通
- (7) 同盟国又は特定国に1年以内に出願されている場合で優先権の適用を受けようとするとき、最先の同盟国出願又は特定国出願があったことを証する書面 1通  
(以下該当するものを記載)
- (8) 試作データ 1通

## 説 明 書

農林水産植物の種類 果樹（ぶどう）  
出願品種の名称 ヤマ・ソービニオン（Yama Sauvignon）  
出願者の氏名又は名称 山梨大学

### 1、出願品種の植物体の特性

#### (1) 概要

この品種は、山ブドウ（*Vitis Congnetiae*）とカベルネ・ソービニオン（*Cabernet Sauvignon*）の交雑実生であり、育成地（山梨県甲府市）において9月下旬～10月上旬に成熟する紫黒色、小粒、中房の中生種の赤ワイン原料用品種である。

樹の大きさ、樹勢、枝梢の太さはいずれも中、どん梢先端の色は薄赤、若葉上面の色は帯赤、成葉の葉身の形は五角、裂片数は5片、葉柄裂刻および上裂刻は共に開き、上裂刻の深さは浅い、葉脈間毛は密生、葉柄の主脈に対する長さは長である。

花房の形は有岐形、穂梗の色は紅、着房数は1～2房、つぼみの大きさは小、子房の形は完全花柱である。果房の形は有岐円錐、果房の大きさは中（240～250g）、粒着の粗密は粗、果梗の色は紅褐、果粒は円形、果粒の大きさは小（1.5g）、果皮の色は紫黒、果皮の厚さは厚、果皮と果肉の分離性は容易、果肉の色は不着色、肉質は塊状、甘味は高（糖度20度以上）、酸味はやや多く（0.8～0.9%）、渋みは少、香気は無い。種

子の数は中(2~3), 種子の大きさは小である。

病害抵抗性と虫害抵抗性はいずれも中, 耐寒性・耐凍性はいずれも強である。

成熟期は9月下旬~10月上旬で, 裂果は無し, 果梗の強さは強, 脱粒性は中である。

「山ブドウ」と比較して, 葉の裂片数が多く, 果粒が大きく, 果房も大型で, 糖度が高く, 酸度が低いこと, 「カベルネ・ソービニオン」と比較して, 成葉の上裂刻の深さが浅く, 粒着が粗で, 果房の形が異なり, 成熟期が早いことなどの区別性が認められる。

(2) 特性は, 別紙「特性表」のとおり。

(3) 他の品種と区別されることとなる特性

「山ブドウ」と比較して,

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| ①花の性が完全両性花       | ②葉の大きさが小さい      |
| ③裂刻が見られ, 裂片数が5片  | ④下面葉脈間綿毛の密度が少ない |
| ⑤果房・果粒は大, 結実量が多い | ⑥果房の形が有岐円錐      |
| ⑦果汁糖度が高い         | ⑧果汁酸度が低い        |

「カベルネ・ソービニオン」と比較して,

- |            |             |
|------------|-------------|
| ①葉の大きさが大きい | ②どん梢先端の色が淡い |
| ③上裂刻の深さが浅い | ④成葉の葉身が五角形  |
| ⑤穂梗の色が淡紅   | ⑥粒着が粗       |
| ⑦果梗が長い     | ⑧成熟期が早い     |

## 2. 固定品種又は交雑品種の別 交雑品種

固定品種にあつては, 繁殖の方法

## 3. 出願品種の育成の経過

(1) 両親名 母親 山ブドウ雌性株 (*Vitis Coignetiae*)

父親 カベルネ・ソービニオン

(2) 育成地 山梨県甲府市塚原町1262

山梨大学工学部附属発酵化学研究施設ぶどう育種試験地

(3) 育成の目標

「マスカット・ベリーA」に代わる日本の赤ワイン原料用ぶどうを目的に, 栽培が容易で, 結実量が期待でき, しかもワインの品質がヨーロッパ系ぶどうに匹敵し, 特徴あるワインとなる品種を目標とした。

(4) 育成の経過(育成期間その他)

1978年6月中旬, 山梨県御坂山中に自生する「山ブドウ」の雌性株に, カベルネ・ソービニオンの花粉を交配し, 同年9月30日に果実を収穫, 採種・貯蔵(683粒)した。

1979年春に播種し, 632株(92.5%)が発芽したが, 発芽・育苗の過程で, 子葉の形と色および幼軸の色が同じ株を無作為に淘汰した。

1980年春に残した85株を圃場に定植し, 選抜に取り掛かった。

花穂を持った時点で不完全花を持つ株(25株, そのうち雌性株23株)を淘汰し, さらに栽培試験を続ける間に, 果房が小さい株, 果皮色が薄い株, 花穂を持たない株, トラカミキリの食害により枯死した株を除き, 選抜株8株を残した。

1984年(5年生樹)から選抜株8株について, ワイン醸造試験および品種特性調査を開始し, ワインの品質, 栽培特性が優秀と判断された3株について, 引き続き精査し, その内最も優秀であった1株を品種登録することとした。

## 4. 特性の検定のための試作の状況

(1) 試作の方法

a, 試作地 甲府市塚原町 山梨大学工学部附属発酵化学研究施設ぶどう育種試験地

b, 試作年月及び期間 1984年から5年間

c, 対照とした品種 山ブドウとカベルネ・ソービニオン

d, 栽培の概況(栽培規模その他)

赤ワイン原料用品種としての種苗登録を目的に, 兄弟実生8株と共に, 選抜のための試作を, 対照とした親品種「山ブドウ」と「カベルネ・ソービニオン」を含めて栽培した。試作当初は原木のみで, ワイ

ンの検定によって3株に絞った時点から、高接ぎした株も含めた。

(2) 試作の結果

ワイン原料用品種としては、まずワインの品質が優れていることが大切である。それに劣らず、日本においては栽培が容易で、省力栽培が可能で、しかも結実量の多いことも必要と考える。

「ヤマ・ソービニオン」は「カベルネ・ソービニオン」よりも病虫害に強く、裂果性もなく、一般的なヨーロッパ系ワイン用品種よりも日本の気候での栽培に適している。通常の栽培管理、病虫害防除で栽培でき、結実量も多い。現在の日本の代表的赤ワイン原料用ぶどう「マスカット・ベリーA」にも匹敵する。

ワインの品質においては、「カベルネ・ソービニオン」にはやや劣るが、「山ブドウ」の特徴がわずかに残り、これが特徴ともなっている。「マスカット・ベリーA」にあるラブルスカ臭はない。

(3) 詳しい内容は添付書類とする。(測定数値等)

5, 出願品種の主たる用途 赤ワイン原料用

6, 栽培の方法

(1) 適応地域 果汁酸度が比較的高い(0.8~0.9%)こともあり、耐寒性はあるが、山梨県、長野県以南と考えられる。

(2) 作型 一般的ぶどう栽培

(3) その他栽培上の留意事項 特になし

7, その他(参考となるべき事項) 特になし

### 現地調査票(果樹)

※1, 「ある」「ない」のうち該当する方を○で囲むこと。

2, 空欄には必要事項を記載すること。

1, 出願及び対照品種の試作状況

(1) 出願品種の原木はあるか。……………  「ある」  「ない」

「ある」場合には、その所在地を記入すること。

所在地 山梨大学工学部附属発酵化学研究施設ぶどう育種試験地

(2) 出願品種を高接ぎした成木あるいは苗木から養成した成木はあるか。

……………  「ある」  「ない」

「ある」場合には、高接ぎ・苗木の別および樹令別本数ならびに所在地を記入すること。

ア, 高接ぎ・苗木の別 高接ぎ

イ, 樹令別本数等

樹令 緑枝接ぎ2年生 2本

所在地 山梨大学工学部附属発酵化学研究施設ぶどう育種試験地

(3) 最も類似する対照品種名を2品種以上あげ、対照品種として考えた理由を記入すること。

No.1 カベルネ・ソービニオン 理由 交雑親

No.2 山ブドウ 理由 交雑親

(4) 対照品種が出願品種と同一園あるいは近隣にあるか。

No.1 カベルネ・ソービニオン ……  「ある」  「ない」

No.2 山ブドウ ……  「ある」  「ない」

「ある」場合には、本数、樹令、所在地を記入すること。

No.1 カベルネ・ソービニオン 10本, 樹令5~10年生, 同一園

No.2 山ブドウ 5本, 樹令8年生, 同一園

(5) 現地調査では、出願品種の調査のほか、対照品種との比較調査を行うので、対照品種の区画も設定しておいて下さい。

2. 現地調査時期

可能な時期 1989年 8月20日 ~ 10月10日  
 最も適した時期 1989年 9月20日 ~ 10月10日  
 (区別性が最も明確に判明できる時期)

3. 現地調査場所

住所 山梨県甲府市塚原町1262  
 交通機関 JR中央本線 甲府駅下車 車で15分

4. 試作データの整備状況

登録品種「ヤマ・ソービニオン」および対照品種とした「山ブドウ」「カベルネ・ソービニオン」の経時的な果粒調査と果汁成分分析値、特性表を整備している。

(1) 出願品種の試作データがあるか。…………… 「ある」 「ない」  
 「ある」場合には、試作データを当方あて1部送付すること。

(2) 出願品種の試作については、県果樹試験場、普及所等に相談して行っているか。  
 ……………… 「いる」 「いない」

(3) 現地調査の時には、調査確認できない特性(例えば、つぼみ、花など)については、出願書に添付した特性表に従って、その時期の計測、写真撮影して、試作データとして記録しておいて下さい。(対照品種との区別性を調査し明確にしておくこと)

5. 連絡先および担当者

住所・所属 甲府市北新一丁目13-1  
 山梨大学工学部附属発酵化学研究施設  
 氏名 山川 祥秀 助教授、 榎山 繁彦 会計係長

6. そのほか(特に連絡事項がある場合は記入して下さい。)

7. 問い合わせおよび報告書提出先

住所 〒100 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1  
 農林水産省農蚕園芸局種苗課  
 担当審査官 福留, 田中 (TEL 03-502-8111 内線3814)

# 特 性 表

整理番号									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

農林水産植物の区分名	果 樹	区分カード	0 8
------------	-----	-------	-----

農林水産植物の種類名	ぶどう	種類名カード	0 2 2
------------	-----	--------	-------

出願品種の名称	ヤマ・ソービニオン
---------	-----------

対照品種名	山ブドウ カベルネ・ソービニオン
-------	---------------------

部位区分	重 要 形 質 形 質 区 分	特 性									特性に関する具体的説明 (対照品種と比較して)
		(01)	(02)	(03)	(04)	(05)	(06)	(07)	(08)	(09)	
(01) 樹・枝	(01)樹の大きさ (拡がり)			小		中		大			山ブドウ、カベルネ・ソービニオンと同じで、若木は徒長するが、成木になると落ち着く。
	(02)樹勢			弱		中		強			若木時代には、山ブドウに似て強い。
	(03)枝梢の太さ			細		中		太			
	(枝梢の色)										山ブドウより淡く、カベルネ・ソービニオンに似る。
	(04)どん梢先端の色	黄		薄赤	赤	紫					
	(05)どん梢先端のアントシアンの着色	無		微少		多					
	(06)熟梢の色	黄	黄褐	暗褐	赤褐	紫					
	(枝梢毛じの多少)										
	(07)どん梢先端の毛じの密度	無し又は極僅		僅か		中位			密生	極密生	山ブドウは極密生。
	(08)熟梢の毛じの密度			僅か		中位			密生	極密生	
	(09)節間断面の形	僅か	角ばる	細溝あり	肋骨あり						
(10)着房数	1~2房	3房以上									
(11)巻きひげの着生	2以下	3以上									
(02) 葉	(葉形)										
	(01)葉身の形	くさび形	心臓形	五角形	円形	腎臓形	截頭形				山ブドウは心臓形で、裂刻はない。カベルネ・ソービニオンは円形で、裂刻が深い。
	(02)裂片数	全辺	3片	5片	7片	7片以上					
(03)葉身横断面の形	平	種状	内巻	外巻	起伏多い						

重要形質		特 性									特性に関する具体的説明 (対照品種と比較して)		
部位区分	形質区分	(01)	(02)	(03)	(04)	(05)	(06)	(07)	(08)	(09)			
(02) 葉	(04)網脈間の膨れあがり	無し		僅か		中			大		山ブドウは浅く、カベルネ・ソービニオンは深い。		
	(05)鋸歯基部幅に対する長さの比			短		中			大				
	(06)葉身先端部のとがり程度	鋭	中	鈍	円								
	(07)葉柄裂刻の一般的な形	広く開く	開く	やや開く	閉じる	やや重なる	重なる		深く重なる				
	(08)上裂刻の形	開く	閉じる	僅かに重なる	深く重なる								
	(09)上裂刻の深さ			浅い		中位			深い				
	(10)葉の大きさ	非常に小		小		中			大	非常に大		(葉長22.4cm)(葉幅19.2cm)230cm <sup>2</sup> 、山ブドウ(257cm <sup>2</sup> )カベルネ・ソービニオン(125cm <sup>2</sup> )	
	(葉色)												カベルネ・ソービニオンは濃緑、それよりもやや淡い。  カベルネ・ソービニオンは淡紅、それよりも濃い。 やや有りに属す。
	(11)成葉上面の色	淡緑	緑	濃緑	暗緑								
	(12)成葉下面の色	淡緑	緑	濃緑	淡灰	灰	淡褐	褐					
(13)葉柄の色	緑	淡紅	濃紅										
(14)成葉上面の光沢	無し								有り				
(葉の毛じの多少)											山ブドウは極密生。		
(15)葉脈間毛じの多少(下面)	無し又は極僅		僅か		中			密生	極密生				
(16)葉柄毛じの多少	無し又は極僅		僅か		中			密生	極密生				
(17)葉柄の長さ(葉柄の主脈に対する長さ)			短		中位			長			1.2で長に属するが、山ブドウは0.7で短、カベルネ・ソービニオンは0.9で中。		
(18)葉柄の太さ			細		中			太			(3.56mm)山ブドウ4.02mm,カベルネ2.73mm		
(03) 花	(01)花房の形	有岐型	小副總型	大副總型									
	(02)花房の大きさ			小		中		大		極大	(15.8cm)		
	(03)總梗の長さ			短		中		長			(2.0cm)		
	(04)總梗の色	淡緑	緑	濃緑	淡紅	紅					カベルネ・ソービニオンは淡緑。		
	(05)蕾の大きさ			小		中		大			カベルネ・ソービニオンは中。		
	(06)子房の形	花柱無し	不完全花柱	完全花柱							山ブドウは不完全花柱。		
	(07)雄ずいの形	雄蕊反転	不完全雄蕊	完全雄蕊							山ブドウは反転していて、雌性株。		
	(08)花粉の多少	無し又は極少		少		中			多		カベルネ・ソービニオンも多い。		

部位区分	重要形質 形質区分	特 性									特性に関する具体的説明 (対照品種と比較して)
		(01)	(02)	(03)	(04)	(05)	(06)	(07)	(08)	(09)	
(04) 果実	(01)果房の形	球	円筒	円錐	長円錐	有岐円筒	有岐円錐	多岐肩	複形		やや長円錐に属す。
	(02)果房の大きさ	非常に小		小		中		大		非常に大	(250g)山ブドウは花流れして小房。
	(03)粒着の粗密	極粗		粗		中		密		極密	カベルネ・ソービニオンは密着。
	(04)果梗の色	黄緑	緑	濃緑	黄褐	紅褐					
	(05)果梗の太さ			細		中		太			1.6mm以下, 対照品種と同様
	(06)果粒の形	偏平弓形	僅かに偏平	円	短楕円	卵	截頭卵	倒卵	円筒	長楕円	山ブドウ, カベルネ・ソービニオンと同じ
	(07)果粒の大きさ	非常に小		小		中		大		非常に大	(1.3g)山ブドウは1.0g, カベルネ・ソービニオンは1.5g。
	(08)果皮の色	黄緑又は黄白	淡紅	赤	赤灰又は赤褐	紫赤	紫	青黒又は紫黒			
	(09)果粉の多少			少		中		多			やや多い。
	(10)果皮の厚さ			薄		中		厚			
	(11)果皮と果肉の分離性			容易		中位		困難			カベルネ・ソービニオンは困難。
	(12)果肉の色	不着色	着色								緑色を呈する。
	(13)肉質			崩解性		中間		塊状			
	(14)甘味			低		中		高			(20度), ウイルスフリーのカベルネ・ソービニオンとほぼ同じ。
	(15)酸味			少		中		多			(0.8~0.9%)山ブドウは1%以上。
	(16)渋味	無		少		中		多			
	(17)香气	無		マスクット		フォクシー		特殊			
	(18)果汁の多少			少		中		多			肉質塊状のため中。
(05) 種子	(01)種子の多少	無(コリヌスタイプ)		無(サルタナタイプ)		有					1果粒中に2~3粒。
	(02)種子の形			短		中		長			カベルネ・ソービニオンは中, それよりも短かい。

重要形質		特 性									特性に関する具体的説明 (対照品種と比較して)
部位区分	形質区分	(01)	(02)	(03)	(04)	(05)	(06)	(07)	(08)	(09)	
	(03)種子の大きさ			小		中		大			
(06) 生理・ 生態	(01)発芽期			早		中		遅			(4月15日)ヨーロッパ系ワイン用品種より7~10日早い。
	(02)展葉期			早		中		遅			(4月20日前後)
	(03)開花期			早		中		遅			(5月15日)ヨーロッパ系ワイン用品種より7~10日早い。
	(04)落葉期			早		中		遅			11月上旬。
	(05)成熟期			早		中		遅			(9月20日~10月10日)
	(結果性) (06)花振り性	非常に少		少		中		多		非常に多	カベルネ・ソービニオンよりも花振いするが、適当な着果である。
	(07)無核果粒の混入	無~非常に少		少		中		多			
	(果実の着色の難易) (08)着色の早晩			早		中		晩			8月上旬
	(09)着色の難易			易		中		難			
	(10)裂果性	無		少		中		多			山ブドウと同程度
	(脱粒性) (11)果梗の強さ			弱		中		強			
	(12)果梗と果粒の分離			易		中		難			
	(13)果実の日持ち			不良		中		良			
	(14)耐寒性			弱		中		強			
	(15)病害抵抗性			弱		中		強			晩腐およびベト病がみられるが、弱には該当しない。
	(16)虫害抵抗性			弱		中		強			
(07) 台木用品 種のみ	(01)接木の難易			易		中		難			
	(02)接木後の樹勢			弱		中		強			
	(03)栄養繁殖の難易			易		中		難			
	(04)台木の根の發育 (以下略)			弱		中		強			



写真1



写真2

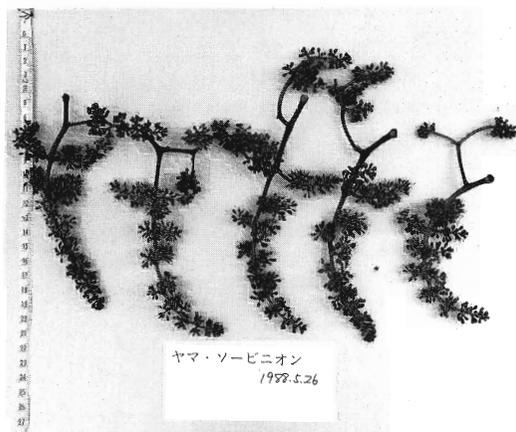


写真3



写真4

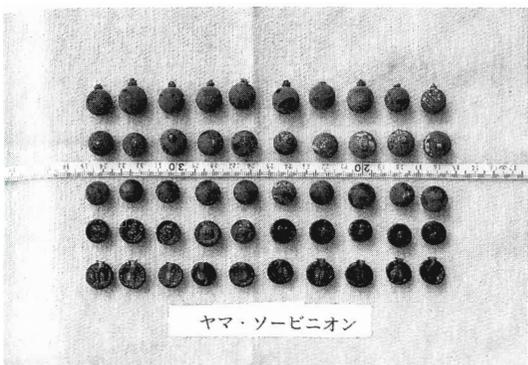


写真 5

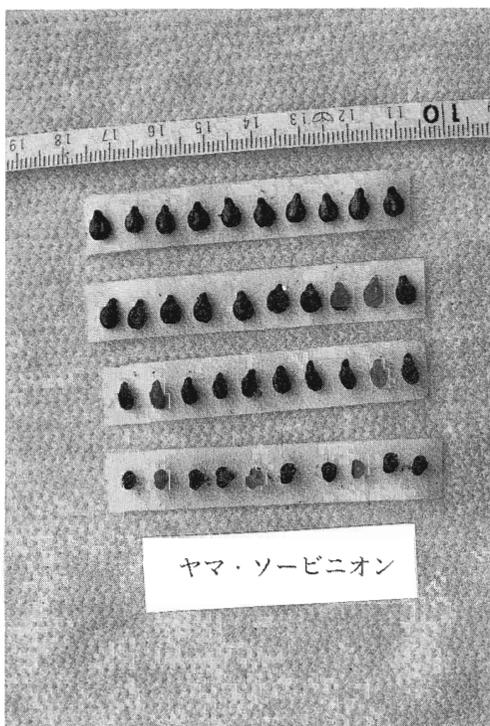


写真 6

- 写真 1 新品種 “ヤマ・ソービニオン” の発芽期 (1988年 4 月19日)
- 写真 2 新品種 “ヤマ・ソービニオン” のどん梢 (1988年 5 月 9 日)
- 写真 3 新品種 “ヤマ・ソービニオン” 開花始めの花房 (1988年 5 月26日)
- 写真 4 新品種 “ヤマ・ソービニオン” 完熟期の果房 (1988年 9 月28日)
- 写真 5 新品種 “ヤマ・ソービニオン” の果粒 (1988年 9 月28日)
- 写真 6 新品種 “ヤマ・ソービニオン” の種子 (1988年 9 月28日)